

NSN フェスティバルの報告

手作りで全員参加型の会を目指した第 21 回 NSN フェスティバルが、全会員の約 7 割、143 名の参加者を得て、9 月 7 日（日）ココネリホールで開催されました。

松岡さんの司会のもと、大貫会長から開会挨拶と NSN 活動報告が行われ、続いて令和 7 年度設立予定の「あおばの会」が、解散となった経緯等の説明がありました。村松副会長の発声による乾杯が行われた後、上田さんと橋本さんによるマジックが披露され、会場は拍手喝采の嵐に包まれました。紙コップ箸渡しゲームは、伊藤さんの進行により、熱の入った戦いが繰り広げられ、四季会・さわやか'17・みんなの会の D チームが嬉しい優勝を果たしました。その後、今年の新企画である「踊り」と「歌」を全員参加で行いました。

「踊り」は、盆踊りをこよなく愛するトリオ魂舞



開会挨拶：大貫会長



乾杯：村松副会長



司会：松岡さん

音声・プロジェクター
：高橋さん

会（こまい会）に指導を受け、炭坑節と東京音頭を全員ノリノリで楽しく踊りました。「歌」は、平永さんのギターをかかえた指揮のもと、みんなでふるさと等 3 曲を歌い、大いに盛り上がりました。

最後に、田中世話役の閉会挨拶があり、来年の再会を祈念して終演となりました。皆様、ありがとうございました。また、来年も元気で来てね。

NSN フェスティバル委員会共同世話役
高橋 昭

フェス世話役
田中さん

NSN フェスティバル委員会に参加して

昨年 12 月のフェスティバル委員会で、令和 7 年は “NSN 会員による手作りフェス” が提案され始動しました。外部の演者に頼らず会員によるマジックや合唱などが本決まりになり、マジック出演でお声掛けを頂いたのは嬉しい反面、目玉の呼び物が無く、素人芸が原因で出席者が激減したり、終了後に悪評だったらどうしよう等、色々不安がよぎりました。

そして迎えた当日。演技中私はとても幸せな気持ちになりました。それは「同じ NSN の会員・同じ仲間なのだから、壇上の演者を盛り立ててあげよう、この時間を一緒に楽しもう！」という皆様の温かい優しい気持ちを肌で感じ、有難い気持ちで一杯になりました。年を重ねてもまるで学生時代のサークル仲間の様な、同窓生の様な、そんな気持ちを抱けるのは NSN に入会したお陰だと思います。

私は 2 年間フェス委員会に在籍し、委員会ではどんな意見にも耳を傾ける姿勢のメンバーばかりで、それは素晴らしいと思いました。過日後任にバトンタッチしましたが、来年はまた新しい企画で開催して頂けるのではと楽しみにしています。末尾になりましたが、フェス委員の皆様お世話になりました。有難うございます。

らんまん 上田洋江

NSN フェスティバルの状況



マジック



テーブル対抗ゲーム（紙コップ 箸渡し）



みんなで踊りましょう



みんなで歌いましょう



《同期会だより》 第9回 なごみの会

《なごみの会のご紹介》

令和6年6月に結成した私たちは、みんなで和んで・一体感を持って・笑顔で楽しいと感じる会を目指し、「なごみの会」と命名しました。メンバー構成は、男性7名・女性16名と女性が多い会になっているのが特徴です。年齢は61歳～89歳とこれまで幅の広い年齢構成となっています。活動の拠点は、大泉学園にある勤労福祉会館です。私たちは50名を越えるシニアセミナーの参加者の中で22名ものメンバーが準備会に参加し一時期25名となりましたが、現在は23名で活動中です。

活動のモットーは、“全員が積極的に活動や企画に参加していくこと”ですが、なかなか難しい面もあります。会員間のコミュニケーションは、LINEを活用しており、例会のまとめや様々な情報共有のツールになっています。

定例会は、基本的に毎月開催しております。終了後には皆でランチと共に親睦を深めています。中には、昼から一寸お酒を飲む人もいます。活動の事例としては、「石神井公園散策」「迎賓館見学」「うた会（懐かしの歌）」「忘年会」「平林寺散策（紅葉）」「深川七福神巡り」「お花見」などがあります。最初に行った「石神井公園散策」では、皆お互いがわからないぎごちなさもありつつお互いを知るきっかけとなりました。また失敗

談として「深川七福神巡り」では参加者が迷子になってしまったことがありました。今後の活動計画として、「隅田川クルージング」「羽田空港見学」「神代植物園・深大寺見学」等があります。更に第31回ねりまシニアセミナーの幹事会として活動しました。

23名という大所帯なので行動を共にする難しさがあり、今後は小人数での活動企画や同じ趣味同志で活動することを検討しております。特技として楽器演奏や手品が得意な方、また前職のスキルを活かしてセミナーで披露頂く方もおります。

こんな私たちですが、どうぞよろしくお願いいたします。 なごみの会 市川俊孝



《同好会紹介》 第2回 ミニブリッジ

四水会にはこれまで30名の方が参加してミニブリッジを楽しみましたが、現在の常連は10名で、月1回2組に分かれてミニブリッジを楽しんでいます。

初めて会った人同士でも、一組のカードがあれば、言葉や国境を超えて交流できるコントラクトブリッジは、4人がテーブルを囲み、向かい合う2人がパートナーとなり、2人対2人のペアで戦う「ダブルス」のゲームです。52枚のカードを4人にすべて配り、それぞれが自分の手札の点数を数えます。Aが4点、Kが3点、Qが2点、Jが1点です。まず前半のオークションで、自分たちに一番有利なスーツを切り札に指定しながら、13組のうち何組を取るかというコントラクトを決めますが、その際お互いのパートナーの持ち点を探りながらコントラクトを決める、という難しいプロセスが初心者に敬遠されがちです。

そこでコントラクトブリッジの簡易版として、オランダで1990年代に考案されたミニブリッジでは、このオークションを省略し、それぞれの手札の点数を最初に公表し合います。二人の点数の合計が多いペアが主導権をとり、このペアのう

ちより多くの点数を持つ人が親となって、切り札を決め、13組のうち何組を取るという宣言をし、そこから後半のプレイが始まります。

運が半分、技（わざ）が半分の楽しい遊びです。それでも頭は使いますので、認知症予防にもなります。ミニブリッジの例会は、毎月第4水曜日の午後2時から4時まで、男女共同参画センターえるの研修室か会議室で行っています。ルールが簡単なので、どなたでもお気軽にご参加ください。



四水会
角地 徳久



会報編集委員会主催の座談会の報告

はじめに

2025年5月22日(木)に、さわやか'17・にこにこネット・らんまん・楽喜クラブの4同期会7名の方々にお集まりいただき、**会報をより良くするためにはどうしたら良いか**、というテーマのもとに会報編集委員を交えて2時間程の座談会を行いました。ここに参加者からのご意見と会報編集委員会の対応を報告いたします。



会報の目的・使命

会報は同期会間および会員間のコミュニケーション促進・関係性強化を目的にNSN内の活動報告・情報提供を担っています。

主な記事内容

記事には①個人・同期会・サークル・作業部会(委員会)等の紹介や挨拶記事、②活動やイベントの告知・報告記事、③投稿・コラム記事等があります。

【参加者からの意見(1~5)及び会報編集委員会からのコメント(▶マーク部分)】

1. **会報は NSN の様々な活動状況と報告と言う観点で役立っていると評価する一方、報告記事が多くて、先々の予告記事が少ないでの面白くないとの意見もありました。**

▶先々(半年~1年)の予告記事等は、執筆者の意識の変革を促すと共に会報編集委員会の原稿依頼方法の見直しによって実現を目指したいと考えています。

2. **会報にも速報性が必要なのではとの意見がありました。**

▶会報は2ヶ月に一度の発行です。執筆記事を依頼してから原稿受領・校正・印刷・配布までの期間を考慮すると速報性は難しいのが現実です。速報性を実現する方法としてはチラシの活用が考えられ、会報編集委員会としてもイベント責任者と協力・推進していくと考えています。

3. **情報伝達だけを考えれば会報はカラーではなくモノクロで良いとの意見がありました。**

▶文字だけでは読んで頂けないので、イラストや写真が必要です。読みやすさの観点からみてもカラーは必須と考えています。

4. **報告記事については、主催者の視点と共に参加者の評価・感想など、より多くの声を記載して欲しいとの意見がありました。**

▶重要な指摘として受け止め、原稿の依頼時点での記事内容の明確化及び会報の追加記載枠をどの様に対応するか今後検討します。

5. **設立が近年の会のメンバーに、早めに記事を書く機会を与えて欲しいとの意見がありました。**

▶年間記事予定表において、書いて頂ける記事項目を検討します。(書くことにより会報への意識を高めて頂けると考えます)

おわりに

ご参加頂きました皆様、貴重なご意見をありがとうございました。

皆さまの求められている記事内容の充実化に向けて今後も努力を重ねていますが、NSN会員の活発な活動があってこそこの会報です。より良い会報を作り上げていくためには、皆様のご協力が不可欠ですので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

会報/NSN編集委員会

ご協力いただき ありがとうございました



【編集後記】今号に報告が掲載されていますが、今年のNSNフェスティバルは新たな趣向を取り入れ例年になく盛り上りました。更に活性化委員会主催による「秋の交流会」開催、そして「日帰りバス旅行」も企画されており、楽しみな1年になりそうです。(山)